

# サクラエビの資源評価に関する研究

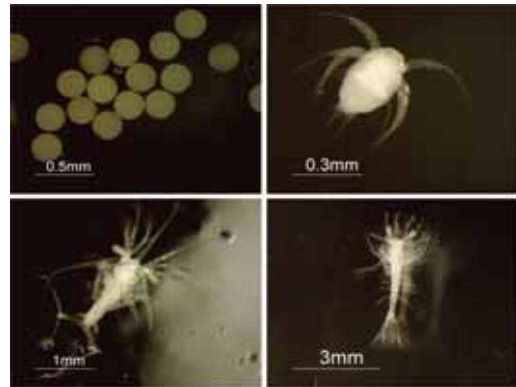
(予算区分 県単独 研究期間 平成22～24年度)

担当：資源海洋科 安倍基温

深層水科 吉川昌之

## 【研究の背景とねらい】

- 近年サクラエビの需要が拡大し価格が高くなるなど、持続的な利用が求められています。
- これまでの研究により、平均体長、産卵時期、水温などから資源水準の動向が予測できるようになり、この結果に基づき資源管理が行われていますが、資源は変動が大きく、年によっては予測を大きく下回ることがあります。こうした状況を避けるため、漁業者は秋漁前に試験網を実施して、子エビが多い漁場での操業を自粛し、翌年の親エビ資源を確保するといった取組みも実践しています。
- こうした取組みによって持続的な利用が図られている一方で、これまで通りのCPUEから資源水準を評価する手法では、子エビの漁獲圧が減少するためにCPUEが低く算出され、子エビの資源水準を過小評価してしまうおそれや親エビと子エビの量的な関係がみえにくくなります。
- このため、的確な資源管理を実践していくためには、漁獲統計を使用しない資源量推定方法やCPUEから資源水準以外でCPUEに影響を与える要因を取除く手法が求められます。本研究では、これまで長年にわたる産卵調査から産卵量、幼生数の経月変化及び経年変化を明らかにし、卵、幼生数から資源量を推定する手法と標本船日報、餌となるプランクトン重量等からCPUEを標準化して資源の年変動に対応する部分を抽出する手法について検討を行い、資源量の推定方法を確認することを目的とします。また、得られた資源量を基に、親エビと子エビの量的な関係についても評価を行います。



サクラエビの成長過程

左上：卵、右上：ノープリウス1期

左下：エラフォカリス3期、右下：アカンソゾマ1期

## 【期待される効果】

- 的確な資源管理の実現に必要な、資源量推定方法や再生産関係に関する知見が得られます。
- 資源量の推定方法や再生産関係を解明することによって、精度の高い漁況予測が可能になります。

## 【年次計画】

細目課題	22年度	23年度	24年度
資源評価手法の検討 ・親エビの産卵回数の把握（飼育試験） ・卵、幼生数等を用いた資源評価手法の検討 ・CPUE標準化についての検討			
再生産関係の究明 ・親子関係について検討			

(作成 平成22年4月)